

雑草イネ(赤米)を根絶しましょう!!

上伊那農業農村支援センター
JA上伊那

- ・近年県下の水田で「雑草イネ」が増加し、上伊那地区でも増加傾向にあります。
- ・雑草イネの玄米は「赤～赤褐色」なので、「赤米」とも呼ばれています。脱粒性（風が吹いただけで、粃がポロポロとこぼれ落ちる）が高く、いったん水田に落ちると、耕耘等の作業で全体に広がるため、防除が難しくなります。
- ・雑草イネの玄米が出荷物に混入すると検査等級が低下し、「品種銘柄」の表示ができなくなるなど、米を生産・出荷する上での大きな問題となるので、地域ぐるみで撲滅に向けた取り組みが必要です。

※ 出荷物を色彩選別機にかけて「赤米」を除去しても、圃場で撲滅する対策を打たない限り数年で全体に広がり、色彩選別機でも除去することが不可能になります。

【上伊那地区で発生している 主な雑草イネの特徴】

- ・雑草イネには、いくつかの種類があります。一般の品種と比較して最も特徴的な違いは、玄米が「赤～赤褐色」、脱粒性（風が吹いたり穂に触れただけで、粃がポロポロと落ちる）が高いことです。脱粒は出穂10日後頃から始まり、脱粒した粃は発芽能力があります。また土中では3～4年生き続けます。
- ・雑草イネは圃場に落ちた翌年、入水すると発芽が始まります。出穂期は田植えをした「コシヒカリ」とほぼ同時期です。
 - 「Aタイプ」：稈長が長く、粃が黒茶色、「のげ」が長く、「のげ」の色や「ふ先色」が赤い等で見分けられます。
 - 「Dタイプ」：稈長は「コシヒカリ」並で、粃の色も「コシヒカリ」と同様ですが、「ふ先色」が赤いので見分けられます。
 - 「Hタイプ」：外見では「コシヒカリ」と見分けが付きません。

※ 脱粒しない紫黒米（穂が黒い）、いわゆる「古代米」は雑草イネではありません。



Aタイプの成熟期



Dタイプの成熟期



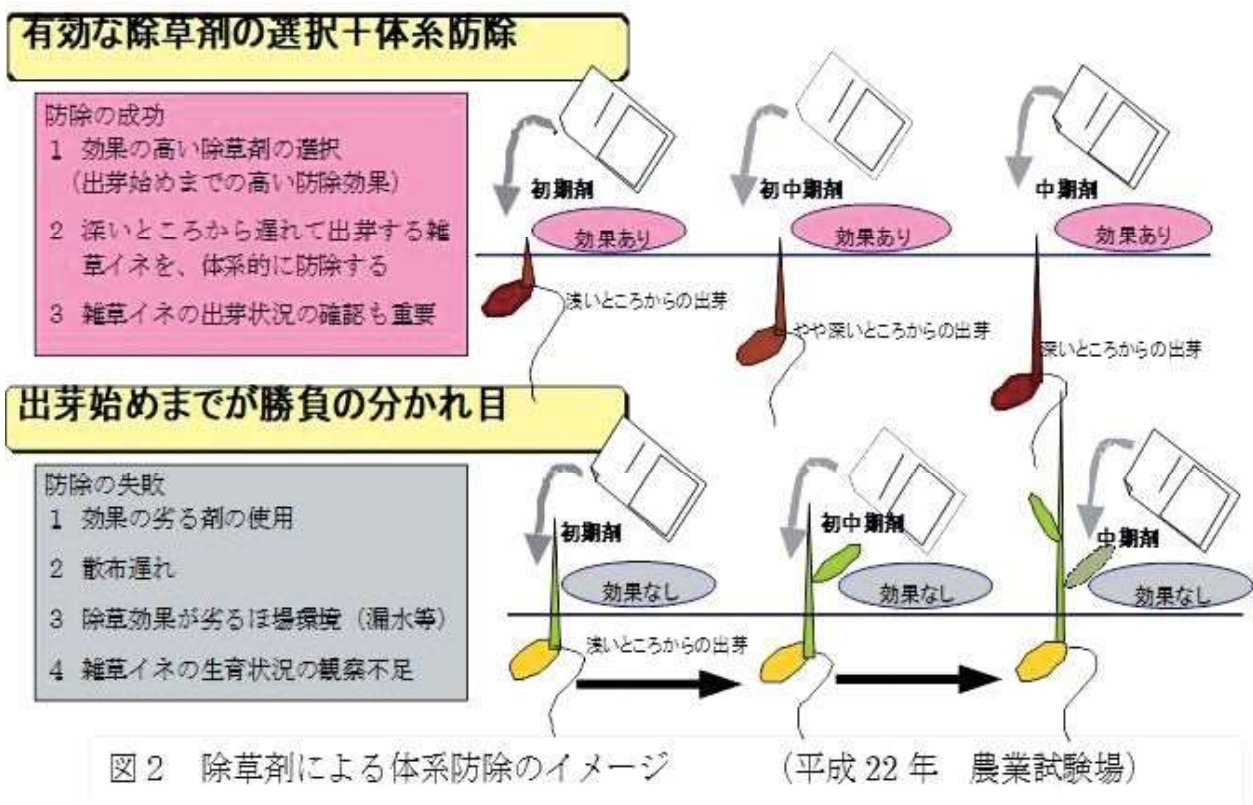
Hタイプの成熟期

【雑草イネ（赤米）の対策】

除草剤による対策と耕種的な対策、両方を3～4年継続して根絶します。

1 除草剤による対策

雑草イネに対して効果のある除草剤を、雑草イネが出芽する前に散布して防除します。雑草イネの種子は、圃場の地表付近の極浅いところから深いところにまで分布していますので、田植え直後から7～10日おきに3回散布します（植え代から田植えまで7日以上あく場合は、植え代直後に1剤目を散布し、田植え直後に2剤目、その7～10日後に3剤目を散布します）。JA上伊那の「令和4年度「米穀・野菜」施肥基準」に織り込まれている「雑草イネ対策指針」に雑草イネに対して効果のある除草剤3剤体系が掲載されています。雑草イネが発芽して第1葉が伸びてからでは、除草剤は効きません。いずれかの体系を選択して適期を失ないように散布してください。



2 耕種的な対策

・手取り除草

雑草イネを枯らすには、発芽する前に除草剤を散布することが基本です。植え代を掻くことにより、発芽した雑草イネは埋め込まれますので、植え代直後または田植え直後に1剤目を散布し、その後7～10日おきに2剤目、3剤の除草剤を散布すれば、

雑草イネは生えてこないはずですが、しかし実際には、発芽した雑草イネを植え代で100%埋め込むことはできません。埋め込まれずに活着した雑草イネには除草剤は効きませんので、生き残ってしまった雑草イネは抜き取るしかありません。

3剤体系処理後、6月下旬頃に畦間、株間（移植した位置以外）に見えるイネは、雑草イネであると疑って、全て抜き取り圃場外に持ち出し、焼却処分してください。7月になると畦間が見えなくなりますので、6月のうちに抜き取ってください。



畦間・株間がこのような状態になっていませんか？
(放置したり除草剤で失敗すると、このようなことにも・・・)



出穂期の抜き取り

出穂期になると一般の稲と穂の外観が異なる雑草イネは見分けることができます。雑草イネは出穂して10日もすると脱粒が始まりますので、その前に直ちに抜き取って圃場外に持ち出し焼却処分してください。

株ごと抜き取るか、地際から刈り取ってください。高い位置で刈り取ると、遅れ穂が発生します。抜き取る時、脱粒するかもしれないので、大きめのビニール袋等を用意して、籾を落とさないように注意して持ち出します。

適期に除草剤の3剤体系を処理しておけば、抜き取る雑草イネを大幅に減らすことができます。

・ 秋起こしをしない

雑草イネの種子は、土中では3～4年間生き続けます。秋起こしをすると、その年圃場に落ちた種子を土中深くに埋め込むこととなります。深い位置に埋没した種子は発芽せずに、そのまま3～4年は生き続け、耕起等により再び地表近くに出てきたときに発芽します。秋起こしをしないと、地表にある種子は冬の寒さで凍結し、ある程度死滅します。

- ・ **発生圃場の作業（耕起、代掻き、田植、収穫）は最後にする**

雑草イネが発生した圃場で作業した農業機械を、他の圃場に移動することにより雑草イネの種子が拡散します。雑草イネが発生した圃場の作業は一番最後にして、作業後は機械をよく洗浄して泥とともに付着している雑草イネの種子を洗い落としてください。

- ・ **畑作物に転作する**

転作（晩播大豆・秋そば等）して、イネ科雑草の防除を3～4年繰り返すことにより、雑草イネは激減します。

雑草イネが発生したら、JAか農業農村支援センターにご相談ください。以上の対策を講じて、雑草イネを早期に撲滅しましょう。